

サッポロビール・下川など4町

森林保護協定を締結

サッポロビールは1日から、下川、足寄、滝上、美幌の4町と連携し、森林保全キャンペーンを展開する。系列のビアホールでお客さんが生ビールを1杯飲むごとに、4町による森林保全事業の費用を同社が支払う。下川町は昨年末、政府から「森林総合産業特区(森林特区)」などに選ばれており、安斎保・同町長は「大きな後押しとなる」と期待を寄せ

る。

31日に札幌市中央区のサッポロファクトリーで開かれた協定の調印式には、サッポロビール北海道本社の泉山利彦代表や安斎町長ら4町長が出席。協定では、サッポロビールが今後4年間、4町が連携した「間伐促進型森林づくり事業」に資金面での支援を行うとし、具体的には、同社のグループ会社が経営する「銀座ライオン」など道内18店舗でビールが消費されると、中ジョッキ1杯分を製造する際に排出する二酸化炭素相当分を吸収できる森林の整備費の5倍の金額を

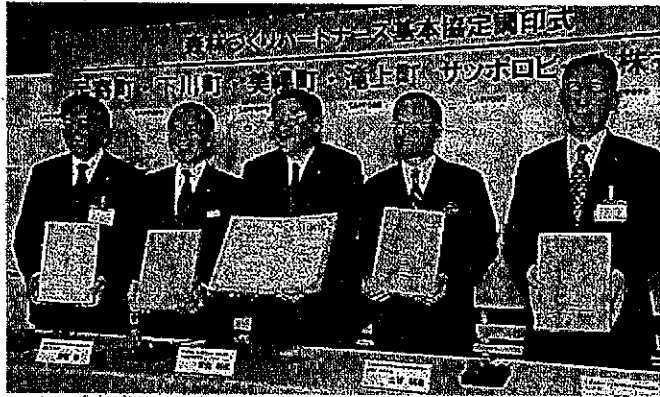
サッポロビールが支払う仕組みだ。

同社の試算では、少なくとも年間約100万円の見込みだが、「お客さんに賛同者が増え、ビールの消費量が増えるほど、森林保全

に支払う金額は増える(広報担当)としている。

下川町は昨年末、政府から森林特区に選ばれ、同町内の2015年度の林業生産額を、10年度比25%増の30億円に伸ばす計画だ。

泉山代表は「豊かな森林を守るため、道民の意識向上に「役買いたい」と述べ、安斎町長は「森林を守り、環境を整えていくには費用がかかる。今回の支援は、我々の活動に弾みをつけてくれる」と話している。



連携協定に調印したサッポロビール北海道本社の泉山代表(中央)と北海道森林バイオマス吸収量活用推進協議会のメンバー

ビール飲んで 森づくり支援

サッポロが連携協定

サッポロビール北海道本社(札幌)は1日から、系列飲食店で消費されるビールの製造・輸送時に出る二酸化炭素(CO₂)を森の樹木に吸収させる場合のコストを計算し、そ

の資金を提供して道内の森づくりを支援する事業を始める。31日、支援先となる「北海道森林バイオマス吸収量活用推進協議会」(上川管内下川、オホーツク管内美幌、滝上、十勝管内足寄の4町)と連携協定を結んだ。昨年、環境省から「カーボンオフセット」の地方発モデル事業に選ばれた。系列のサッポロライオンが運営する18店で飲まれる生ビール中ジョッキを対象に、歓迎会シーズンと呼びかけた。

など年3回の期間を決めて実施する。実際の排出量の約5倍のCO₂を吸収させるのに必要な額を協議会に提供し、森の間伐費用に充ててもらう。

取り組みは2016年1月末までで、1年目の支援額は100万円を見込む。札幌市内で行われた連携協定の調印式で、サッポロビール北海道本社の泉山利彦代表は「脱炭素社会に向けて意識を高めることにつなげたい」と呼びかけた。